

NO! リニア

No. 130

2022年3月7日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



またか！リニア工事で事故発生！

再発防止策を話し合う「安全推進協議会」は機能しているのか？

3月1日16時40分頃、愛知県春日井市のリニア中央新幹線第一中京圏トンネルの西尾工区で、掘削した場所に吹き付けたコンクリートが剥がれ落ち、40歳の男性作業員に当たり肋骨を折る等の大怪我をされました。この事故により、工事は中断しています。

リニア工事を巡っては、昨年10月27日に岐阜県中津川市の工事現場で作業員2名が死傷するトンネル崩落事故や、11月8日には長野県豊丘村の工事現場で土砂崩れが発生し、作業員1名が怪我をする事故が連続して発生しています。リニア工事は、静岡県知事が工事許可をしないから計画が遅れているかのように宣伝されていますが、実際は、いろいろな工区で計画よりも遅れているのです。

JR東海は昨年11月24日、リニア工事で相次いで事故発生したことを受け、施工企業と再発防止策を話し合うために「中央新幹線安全推進協議会」を立ち上げていますが、本当に事故を起こさない為に発足された会議の場なのでしょうか？表向きは、事故の再発防止を議論する場に見せかけて、実際はリニアを予定通り開業させる為のアリバイではないのでしょうか？

この間、大きな工事や難関工事では、作業員が何人も犠牲になりました。ここでリニア工事を中止すれば、これ以上の犠牲者は出ません。まさか、JR東海は「人命よりも大動脈輸送の方が優先」という考えなのでしょうか？

このコロナ禍で人の流れは変わり、企業はTV会議や在宅勤務などのリモートワーク環境を整備しており、また少子化により、今までのように新幹線を使う人が減るのは確実です。このような状況で、無理矢理リニアを建設して会社を運営していけるのでしょうか？

JR東海労は経営破綻が確実なリニア建設には反対です。